

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 文化財保護センター環境整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 文化財保護センター 管理調整係

電話番号：058-237-8550

E-mail：c21807@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 113,940 千円（前年度予算額：49,727 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	49,727	0	0	0	0	0	0	44,700	5,027
要求額	113,940	0	0	0	0	0	0	102,500	11,440
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

文化財保護センターは平成10年に旧警察学校の跡地に移転し現在に至るが、旧警察学校の建物をそのまま活用しているため、老朽化が著しい。職員や来館者に対してどのように安全を確保するか、また発掘調査に伴い出土する大量の遺物や発掘記録をどのように保管していくかが課題であり、このため文化財保護センターの安全安心な環境の整備を実施する。

(2) 事業内容

◎文化財保護センター東館Ⅰ屋上防水及び外壁等改修工事

現在1か所漏水しており、屋上面や外壁等の経年劣化が12条点検で報告されているため、長寿命化計画に基づいて補修を行う。

◎文化財保護センター東館Ⅱ実施設計

現在1か所漏水しており、外壁等の経年劣化が12条点検で報告されているため、長寿命化計画に基づいて令和4年度に実施設計を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	8,347	東館Ⅱ実施設計 4,967 東館Ⅰ工事監理 3,380
工事請負費	104,664	東館Ⅰ屋上防水及び外壁改修工事
その他費用	929	業務旅費他
合計	113,940	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

県有施設の長寿命化計画に基づき、建築物、建築設備の修繕や更新を計画的に実施することで、建築物の長寿命化を図るとともに財政負担の軽減を図る。

(2) 後年度の財政負担

計画的に施設整備を行うことで、突発的な不具合を減らし負担軽減を図る。

(3) 事業主体及びその妥当性

国や県の開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行い、記録保存し、その研究、活用をとおして県の文化振興に寄与することを目的とする県の教育機関であり、施設管理者として安心安全な環境づくりを推進する必要がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 老朽化、経年劣化した建物を使用目的に合わせて整備することで、職員及び来館者にとって安心安全な施設づくりを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

センターを維持管理するための環境整備であるため、指標は設定できない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。 東館Ⅰの屋上防水及び外壁等改修工事 東館Ⅱ（昭和40年築）の実施設計 実施設計を計画的に実施したことにより工事をスムーズに進めることができた。
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	今後、県民に向けて普及・活用するための埋蔵文化財の収蔵場所、整理場所の安全性の確保は必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	老朽化した建物を使用目的に合わせて修繕することで、職員及び来館者にとって安全な施設とすることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	建物の利用計画を見直し、必要な箇所を効率的に修繕することができた。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 4年度に東館Ⅰを修繕し、5年度の工事に向けて東館Ⅱの概算見積を依頼するが、北館、東館Ⅰ、Ⅱは耐震性能を満たしていなかったため、今後耐震補強も視野に入れて計画をより細やかに見直す必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 現在すでに老朽化が著しいが、今後も発掘に伴い増加する遺物等の収蔵に備えるため、県有施設の長寿命化計画に沿って定期的に修繕や更新を行っていく必要がある。また、敷地内の除草を継続的に実施して、安全で清潔な職場環境を維持する必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【〇〇課】
--	-------